

学会彙報

理事會

昭和三十七年度

〈第三回〉

昭和三十七年十二月五日 於龍谷大学本館

- 一、昭和三十七年度学会々計中間報告
- 一、第十回大会開催に関する件

第十回大会は昭和三十八年五月十八、十九の両日、興正派本山において開催することとし、当日のプログラムについて協議する。

〈第四回〉

昭和三十八年二月二十八日 於龍谷大学図書館応接室

- 一、第十回大会開催に関する件
- 第十回大会の開催について諸事項を検討協議する。

(第一、第二回の記事は前号に掲載)

昭和三十八年度

〈第一回〉

昭和三十八年五月十八日 於興正派本山會議室

- 一、学会々計の件
- 1、昭和三十七年度決算承認
- 2、昭和三十八年度予算案審議
- 一、第十回大会の進行に関する件
- 一、学会運営に関する件

学会役員の改選と次年度の大会について協議する。

〈第二回〉

昭和三十八年七月二日 於龍谷大学図書館応接室

- 一、「真宗研究」第八輯編集に関する件
- 一、第十回大会会計決算報告

第十回大会

昭和三十八年五月十八、九日

京都市 興正派本山

〈第一日〉

五月十八日 宗祖聖跡巡拝と臨地講演

講演

- 一、慈鎮和尚と青蓮院

於青蓮院華頂の間

一、法然上人と吉水禪坊

京都大学教授 赤松俊秀氏
文学博士

一、覚信尼公と大谷廟堂

大谷大学教授 藤島達朗氏
文学博士
龍谷大学教授 宮崎円遵氏
文学博士

午後一時三十分より開催、聴衆一七〇名が会場にあふれて極めて盛会であった。講演終了後、青蓮院、元大谷、知恩院廟所、吉水禪坊を巡拝し、絶好な五月晴れのもと有意義な半日であった。

懇親会

於興正派本山宗務所二階広間

先ず会員の親睦を深める意味で、午後五時より夕食会が開かれた。興正派新門の御臨席もあり、会員八十五名が出席する。はじめに興正派千葉宗務総長の挨拶、次いで大原理事長の挨拶があった後、各自箸をとる。しばらくして興正派蘭氏の司会のもとに、三門徒派宗務総長清原良雄氏、金沢大学教授橋本芳契氏、佐賀龍谷短大教授森脇一掬氏、山下むつ女史、興正派教学参務綾俊照氏のスピーチもあって、歓談する。

その後懇談会に移り、「本学会十周年に当り真宗学界の回顧と展望」と言うテーマのもと、龍谷大学教授普賢大円氏の司会によって進行する。創設十周年を迎えた本学会が、その間に如何なる役割を果たしたか、また今後如何にあるべきかについて、歴史的面と教義的面と分けつつ討議を重ねていった。細川行信氏、雲村賢淳氏、藤島達朗氏、加茂仰順氏、山本仏骨氏、

橋本芳契氏、安本一正氏、佐々木徹真氏、森脇一掬氏、西本龍山氏、藤原氏、小西氏、幸田氏等の発言があり、歴史面においては、この十年間本学会の尽力によって種々有益な資料が我々の前に提供されたことは、何ものにもかえがたい有意義なことであった。しかしながらその研究方法については、多く第三者的な立場からのものであったが、今後我々は宗祖としての親鸞聖人研究と言う方向において、我々が如何に生きるかと言う主體的な問題として研究されるべきであろうと言うことが強調された。また教義面においては、過去においては一般の思想界との対決、交渉と言う面が欠けていたように思われるが、今後かかる方向に留意し、更らに真宗の社会性の問題、実践教学の確立、俗信仰との対決、教学術語の平易化等の諸問題について考慮されるべきであると論じられた。

以上約二時間に亘つて学会員の熱心な討議が続けられ、八時三十分に終了した。

△第二日▽ 五月十九日

研究発表 於興正派本山対面所

午前九時より午後三時まで次の十氏の研究発表が行なわれた。

- 1、親鸞教学のもつ菩薩道的理念の構造
龍谷大学 石田 充之
- 2、独立者の誕生
大谷大学 伊東 慧明
- 3、真宗道場の形態―看坊から自庵へ―
龍谷大学 千葉 乘隆
- 4、真宗寺院の社会的機能
龍谷大学 川崎 恵璋

5、本派前期宗学の思想的考察

関西大学 藪田香融

6、親鸞聖人の六角夢想の偈について

大谷大学 名畑 崇

7、論註他利利他の深義について

興正学会 小比賀保一

8、江戸時代越前における転宗派について

高田学会 芦原 慧明

9、一向一揆の解体について

大谷大学 北西 弘

10、親鸞聖人の仏弟子観

大谷大学 広瀬 泉

於興正派本山対面所

研究発表終了後次いで会員総会が開かれた。これには木辺派高田派、仏光寺派の各法主、及び出雲路派、三門徒派の新興が臨席された。

第一部

一、開会の辞(司会者)

川瀬理事

一、勤行(嘆仏偈)調声

大原理事長

一、挨拶

大原理事長

一、挨拶

千葉興正派宗務総長

一、祝辞

木辺派法主 狛下

一、祝辞

清原三門徒派宗務総長

一、祝電披露

川瀬理事

(名畑心順氏、小松雄道氏、間島晃一氏)

第二部

一、座長推挙

司会者より提案賛成をうる。

座長 松原理事

一、昭和三十七年度会務報告

一、昭和三十七年度決算報告

一、昭和三十八年度予算審議

佐藤理事より報告及び説明があつて会計に関しては原案を承認可決する。

一、学会役員改選の件

一、次年度大会々場の件

右二項目についてまとめて佐藤理事より説明、従来の役員更迭の時期が事務上不便なため、二年おきに大会終了後更迭することとした。従つて現役員の任期は従来からすれば明年三月末日までであるが、次年度大会まで延期し、その大会で役員改選の上、大会終了直後に新役員と更迭することにしたと言う旨を提案し承認される。

また次年度大会の当番は木辺派本山とし大会会場は龍谷大学として開催することに決定する。

一、その他

出雲路派藤季氏より、中央における大会のほか、地方においても学会を開いて欲しい。研究発表のほかに特別講演会を開いて欲しい。真宗各派の統一せる勤行作法の制定について、側面的運動をすすめて欲しいと言ふ要望があつた。

記念撮影

会員総会の後御影堂前にて一同記念の撮影を行なう。

両堂参拝

その後全員両堂に参拝、以上をもつて第十回大会を終了する。

第十回大会記念品解説

浄土三経往生文類

(巻頭写真参照)

興正寺 蔵

「浄土三経往生文類」は親鸞上人の真蹟として興正寺に襲蔵されて来たもので、一般に「三経往生文類」の広本と言われるものである。その体裁は縦二五・七cm、横一八・五cm(裏打の寸法はこれより少し大きい)の袋綴、半葉に五行、一行十二字内外、本文三十葉、別に表紙一葉並に末尾に奥書の半葉とかならなっている。現在の装幀は弘化年間興正寺第二十七世撰信上人の修理になったもので、「弘化帝著御黄櫛染御袍之裂関白政通公賜之」とあり、前の装幀表紙の焼けた裂が残されており、本文の紙にも水の滲み跡が見られ、そのために裏打のなされたものと思われる。

表紙外題に

浄土三経往生文類 平俊直

三経往生

俊直

とあり、後者は宗祖の筆と断定される。又奥書には

今回は特に興正派本山の配慮により、同派の安居会と関連されたため、大会参加者は約一八〇名を数え、極めて盛会であった。

康元二年三月二日書写之

愚禿親鸞 八十五歳

とある。この平俊直については明確にすることはできないが、「明月記」に見られる「玄蕃允平俊直平」と推察され、玄蕃寮の下の職員に与えられたものであろう。

「三経往生文類」は、経論釈の文を類聚して、無量寿経・観無量寿経・阿弥陀経の三経によつて難思議・雙樹林下・難思の三往生を分別し、その真仮を批判したものであるが、聖人八十三歳の撰述になる略本には往相廻向が明かされているが、還相廻向には及んでいないし、又信・証の二法が示されているが真実行には言及されていない。広本ではこれらが整備されているこれは略本と聖人八十四歳撰述の往還廻向文類との両書が統合整理されて成つたものが広本であると考えられる。

本文中には返点の「レ」は用いず、「一二三」「上中下」を用い、振仮名・送仮名・返点・句切点は朱書し、御左訓は墨書してあるが、所々墨で振仮名送仮名を付し、朱で御左訓の付されている所もある。

会計報告

第十回大会会計報告 (於 興正派本山
五月十八、十九日)

昭和三十七年度 (昭和三十七年四月一日より
昭和三十八年三月三十一日まで)

収入合計

二八八、二九三円

支出合計

二三六、五〇五円

差引残高

五一、七八八円

収入の部

学会費収入

七九、九六〇円

各本山助成金

一三七、五〇〇円

雑収入

二一、一二二円

前年度繰越金

四九、七一円

合計

二八八、二九三円

支出の部

第九回大会費

四二、五三五円

真宗研究第七輯印刷発送費

一六三、二七〇円

会議費

一一、五二〇円

事務費

七、七六〇円

通信費

一、七〇〇円

交通費

九、七二〇円

合計

二三六、五〇五円

註：差引残額 五一、七八八円は昭和三十八年度会計に繰越

した。尚第九回大会の収支の内訳については前号におい

て報告した如くである。

収入の部

一、大会参加費 (二八一名×一〇〇)

一八、一〇〇円

二、懇親会費 (五二名×三〇〇)

一五、六〇〇円

三、昼食弁当費 (三七名×一五〇)

五、五五〇円

四、学会充当金

四五、九七五円

五、興正派特別補助

四六、一九〇円

収入合計

一三一、四一五円

支出の部

一、印刷費

三二、六四〇円

二、通信費

四、〇〇〇円

三、懇親会費

二六、〇一〇円

四、昼食弁当費

一〇、五〇〇円

五、臨地講演諸費

一七、五〇〇円

六、記念品費

二七、七〇〇円

七、徽章費

二、二二〇円

八、事務用品費

六、二七五円

九、雑費

四、五七〇円

支出合計

一三一、四一五円

興正派本山特別補助金 (内訳)

一、臨地講演帰途バス代 (四台分)

六、〇〇〇円

一、臨地講演講師謝礼 (三名分)

三、〇〇〇円

一、懇談会茶菓子代

三、一六〇円

- 一、研究発表者記念品代（二三名分） 七、八〇〇円
- 一、大会参加者記念品代（一九九名分） 一九、九〇〇円
- 一、事務用品費 二、九〇〇円
- 一、役員会、その他 三、四三〇円
- 合 計 四六、一九〇円

新役員名簿（自昭和三十六年四月至昭和三十八年五月）

真宗十派法主親下（氏名省略）

顧問
参与

本願寺派宗務総長	太田 淳昭
大谷派宗務総長	訓 覇 信 雄
高田派宗務総長	誓 山 信 暁
仏光寺派宗務総長	物 部 義 道
興正派宗務総長	千 葉 葆 亮
木辺派宗務総長	石 原 円 成
誠照寺派宗務総長	波 多 野 暁 祥
出雲路派宗務総長	小 泉 宗 一
三門徒派宗務総長	清 原 良 雄
山元派宗務総長	高 帛 祐 恭
龍谷大学長	増 山 頭 珠
大谷大学長	曾 我 量 深
同朋大学長	山 上 正 尊
京都女子大学長	藤 音 得 忍

- 理事長 高 田 学 会 生 桑 完 明
- 理事 元 理 事 長 大 江 淳 誠
- 前 理 事 長 名 畑 応 順
- 理事 大 原 性 実

評議員
 稻葉秀賢、藤島達朗、松原祐善（以上谷大） 大原性実、宮崎円邁、佐藤哲英、普賢大円（以上龍大） 川瀬和敬、平松令三（以上高田学会）

稲葉秀賢、藤島達朗、松原祐善、三品彰英、日野環、赤松俊秀（谷大） 大原性実、宮崎円邁、佐藤哲英、大友抱璞、小笠原宣秀、普賢大円（龍大） 川瀬和敬、平松令三、岩田繁三、竹内光範、玉樹真染（高田） 橘純孝（同朋大） 土井忠雄（京女大） 森脇一掬（佐賀龍谷短大） 山本正文（大谷専修学院） 石田瑞磨（日本教学研究所） 佐々木求己（真宗史研究会） 佐々木篤祐（仏光寺派） 園修（興正派） 二村龍華（木辺派） 大悟諦現（誠照寺派） 池 聴水（出雲路派） 林精専（三門徒派） 高帛祐恭（山元派）

学会員名簿 (昭和三十八年八月現在)

井生安安天芦葦足浅浅浅秋青青赤赤赤明綾綾
 伊桑辺藤崎原名利野野井葉地木山松松石沢
 成完一智紹慧茂春長教了寛次恭正得俊美恵光俊
 海明雄純雄明良枝量信宗猷音誓秀秀達朗照

上上出岩岩岩稲稲稲石石伊伊一今池池池池井
 田杉雲路田崎崎葉葉垣垣田田藤東羽井嘉重教勇聽
 義思派宗務繁俊正秀最俊瑞充順慧国嘉重教勇聽
 文朗所三雄衛賢三一磨之道明道照臣了諦水浄

大 大 大 小 小 小 小 小 織 織 越 榎 遠 江 宇 上 雲 内 爪 梅 梅 海 白 白 上
 江 江 江 野 串 笠 川 川 田 田 智 原 藤 上 野 杉 藤 海 津 原 原 野 井 井 場
 学 淳 智 千 ち 宣 貫 祥 顯 宣 徹 祐 浄 行 慧 義 静 隆 隆 真 徹 元 卯 謙
 会 誠 朗 導 よ 侍 秀 讓 弍 真 信 祐 了 順 信 信 岳 道 子 雄 章 隆 雄 成 郎 澄
 彙
 報

堅 柏 笠 笥 梯 柿 加 加 加 加 可 奥 冲 岡 横 正 太 太 大 大 大 大 大 大 大
 田 原 原 本 茂 藤 藤 藤 西 田 超 親 田 田 屋 橋 橋 洞 原 西 友
 祐 一 保 実 理 仰 仏 源 大 教 誠 亮 慧 含 祖 憲 俊 徹 龍 性 昇 抱
 修 泉 男 憲 円 海 順 眠 道 晃 秀 宝 諦 二 日 英 電 力 一 雄 映 明 実 隆 璞

撰正下島島柴篠篠信志里真真漣桜桜西樂佐佐佐佐佐佐佐
 受信津本津田田樂賀村田田漣部井樂寺藤木木木木木木木
 静了智行龍田崎峻孝專大有美專文鏡城(川本義範)英憲智祐三真了已
 学
 会
 彙
 報

武竹竹竹高高高高高高高高大大太大大多田田田園園園勢甚城
 田中島内柳峰松橋橋橋橋千穗田門宰梧屋中田中久重香香融動脩野野山
 惠誠宗光了正隆利香徹慈照不二丸規俊堂夫義融動脩武義義觀觀
 明一研範哲州哲真枝苗乘昭忍

寺林 寺西 寺西 寺井 堤山 土山 土橋 辻秀 築地 誓山 千葉 種田 棚瀬 友山 立花 谷中 谷下 谷口 龍溪 多田 武田 武内 武田 武田 武田 林惠 西教 西教 井玄 立夫 秀高 栄寺 願寺 眺隆 也爾 水見 淨見 祐宝 一夢 瑞溪 彰信 謙順 尚邦 晃純 賢寿 公丸

灘本 長安 長田 長智 永田 永田 永田 永田 磯尾 長尾 中山 中村 中神 中臣 直井 直林 直孝 真海 真文 名焯 名焯 富永 富永 藤条 藤永 德永 德道 得能 得光 豐原 豐宣 常盤 常原 土肥 土井 土忠 土雄 曜山 仁思

鍋島俊樹 南部秀政 二條秀鐵 西岡義融 西村為法館 西本龍山 野上俊静 野口不二男 野世孝陽 野部了慧 橋本勝重 橋本芳契 畑徹秀 波多野暁淨 泰野宝璋 幡谷明 英秀雲 長谷山正観 林教真 林水月 林精專 服部了雄 浜田七覚

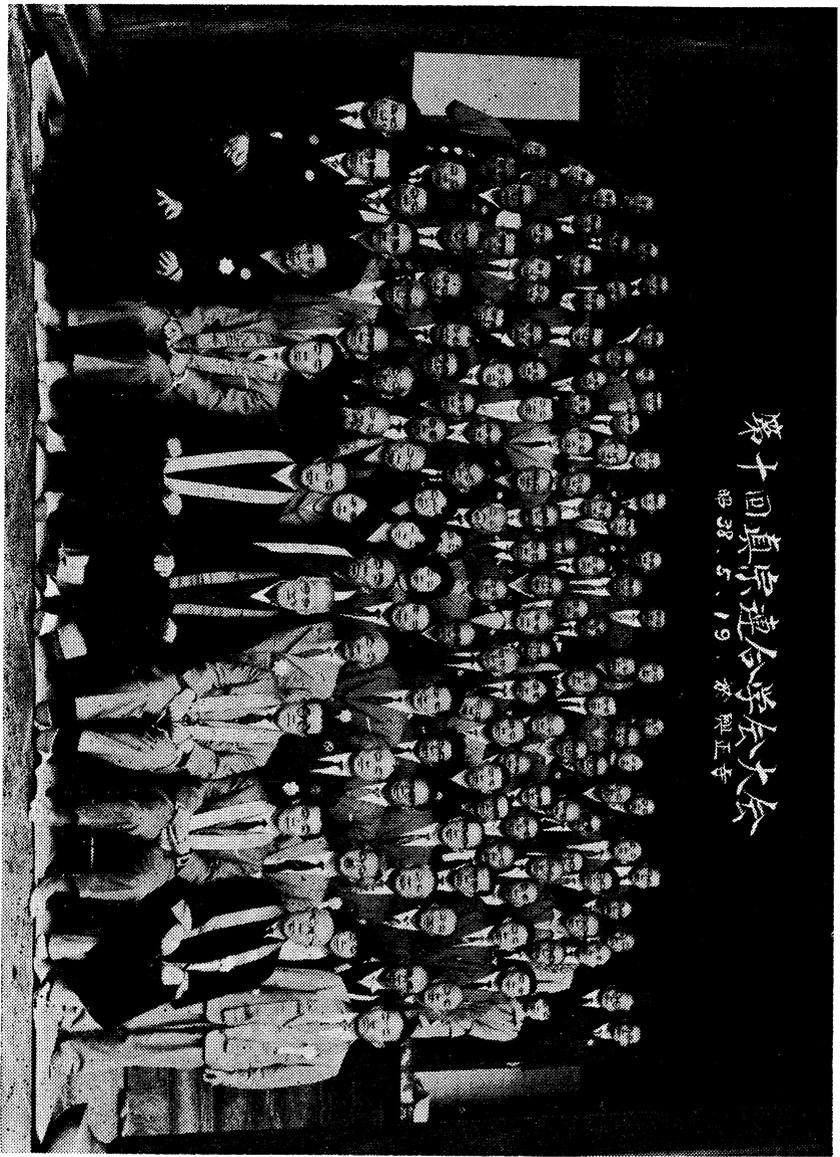
学
会
彙
報

浜田勉戒 久田富子 久野龍英 久本勝信 秀大衍 日野誠憲 日野振作 日野環 平日松三 平尾深廣 深川正文 深川倫雄 富貴原章信 普賢大円 普賢晃寿 福川晃生 福原光蔽 藤光亮永 藤井徳龍 藤岡了観 藤沢桂珠 藤下等曜 藤下信英

山田行雄
山田亮賢
山里桂石
山崎昭見
山崎德勝
山崎慶輝
山口良宣
山口益友
山口胡正尊
山脇一掬
森本西修
森井信雄
森岡清美
森川光定
村田慈雲
村上曉昇
村上速水
村上專龍
向島諱宣
村地哲明
水野了応
水尾現誠

渡辺一
渡辺普柏
鷺尾弘範
若林信次
山正行
山泉勝英
冷山勝海
靈山勝海
吉水忠男
吉田寿男
吉田淳英
吉川昭丸
結城令聞
遊亀教授
柳原秀徹
安野源智
安井広度
山本晃紹
山本仏骨
山本正念
山本正文
山田龍城
山田博道
山田真

以上昭和三十五年度以前の学会費未納者は之を掲載せず



真宗連合学会 第十回大会記念

昭和三八・五・一九 於興正寺